

地域の文化展に広がりが見えてきた 注目された下黒川小文化祭での取組

24日の午前、初めて柿崎区の下黒川小学校文化祭に行ってきました。出かけるきっかけとなったのは大潟区の友人からの電話でした。学校の文化祭で地域の文化展もやっている、それも校区内だけでなく、大潟や吉川区などの作品も展示されているというのです。

会場となっていたのは同校の図書室でした。最初に目に入ったのは木工作品です。灯笼、茶道具など見事なものでした。その次に左上写真のネックレスなど女性をより美しくするものが展示されていました。どちらもプロトシカ言いようのない木工、手芸などの作品でした。それらに続いて、素敵な写真や絵などがずらりと並んでいました。そのなかには吉川区の平田一幸さんの写真3点があり、私のエッセイ集『背中かき』の表紙写真も展

示されていました。うれしかったですね。その他、大潟区の坂井亮円さんの虹を感じさせる織物などもありました。上越市立公民館長の内山輝義さんや次男がお世話になった先生の作品もあり、感動しました。

14市町村が合併して10年が経ったなかでの地域の文化展。最近は出展者の数が減ってきて続けていくのが困難になってきているケースも出てきています。そうした中での下黒川小文化祭の取組は注目に値します。今回の地域文化展、来年はどんなふうに進展していくのか楽しみです。

談合事件、第3回口頭弁論

10月22日は新潟地裁で上越市ガス水道局所管の本支管工事における談合事件に関する第

3回口頭弁論がありました。今回も裁判長と原告側弁護士とのやりとりが中心でした。

注目したのは談合についてどこまで具体的に言った場合、談合行為が行われたことになったのかについてのやりとりです。原告側の齋藤裕弁護士は、個別的な談合行為が明確にならなくとも、入札者の間で一般的な談合合意があった場合、その期間における入札は談合があったと見なすのがこれまでの判例だと主張していました。当然だと思えます。

今回の裁判では音声データなどもあって、資料は豊富です。裁判後の報告会で齋藤弁護士は、「かなり固い岩盤の上で裁判をやっていく」とのべました。次回の口頭弁論は来年1月14日の午後1時半からです。



【サンショウの実】ミカン科の落葉低木。漢字で「山椒」と書きます。実は最初は緑色で、熟して赤色になり、はじけて黒色の種が見えるようになります。写真は黒色の種です。吉川区代石にて撮影しました。



大潟作品展でも見事な作品鑑賞

大潟作品展で絵や書道作品などを観てきました。盆栽コーナーでは同郷の橋爪英一さんから案内していただき、助かりました。純白のダイヤモンドソウの鉢、毎年必ず数個つけるという柿（上の写真）などいいものがいくつもありました。このコーナーでは吉川区在住の大工さんも出展されていました。

日本共産党市議団が大島などで議会報告会

11月17日（火）

18時30分～大島就業改善センター（総合事務所隣）

11月19日（木）

18時30分～上越市市民プラザ

いずれも約2時間を予定しています。9月の決算議会の報告が中心となりますが、来年度の予算要求などもお聞きしたいと考えています。この報告会には私、橋爪法一も参加します。お誘いあわせて、ご参加ください。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1730 2015.11.1

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三七八回

コスモス

いま、コスモスがきれいですねえ。市内各地で赤、白、ピンク、あるいはオレンジの花を咲かせています。いまでもどこでも見ることのできる花ですが、私の子ども時代の記憶にはまったく残っていないのです。当時はあまりなかったのかも知れません。

先日、フェイスブックというインターネットの交流サイトで吉川区山直海の県道沿いに咲くコスモスの花を写真付きで紹介したところ、市内の平場に住むSさんから長いコメントをいただきました。そこには、「東京の実家に生き残っている百三歳の母親がコスモスが好きで、私の子どもの頃から家の周りに植えていました。狭い土地でしたからほんの半畳程の隙間にです。其の記憶のせいか移住以来、家の周りはコスモスだらけにしています」と書いてあったのです。びっくりしました。七〇代の人でも子どもの頃からこの花と出会い、強く印象に残っているという人もいらっしゃるのです。

私はコメントを読んで間もなく、Sさんを訪ねました。訪ねたときはちょうど家の脇にある仕事場におられ、「コスモスのことを聞きたくておじやました」と伝えると、手を休め、まず家の近くに咲くコスモスの案内をしてくださいました。仕事場のすぐ裏、一〇ほど離れた屋敷の北端、そして家の前にある道路を越えて三〇ほど離れたところにコスモスは咲いていました。いずれもこじんまりとしていて、説明を受けなければ見逃すような規模でしたが、花自体は清楚で、素敵でした。

Sさんは東京都港区生まれ、戦時中はお母さんの実家がある上越市東中島に疎開していました。そのせいなのでしょう、子どもの頃の遊びのことや食べ物のことなど、都会出身の人とは思われないくらい私と共通の体験がたくさんあります。また、私のような山間部出身の人間とも不思議なくらい話が合います。

戦争が終わって東京へ戻ったのはいつだったかお聞きしましたが、Sさんが東京に着いたときは一面、焼け野原だったといえます。そうしたときに、Sさんのお父さんは新宿の戸山ヶ原に接している高台に小さな家を建てました。手先の器用な方だったので、Sさんが大久保駅で車を降り、家をめぐった時、高田馬場も遠くの山もよく見えたそうです。もちろん、そこからは夕日もしっかりと見えませんでした。

Sさんの家があったところは窪地だった戸山ヶ原のすぐそばです。当時、戸山ヶ原から高台へと続く土地にはコスモスがありました。お母さんは家の敷地の一部にもコスモスを植えました。コスモスがあり、花が咲くことによってSさんの家族はどれだけ励ましを受けたことか。現在のSさんのコスモスへの執着ぶりを見ればよくわかります。

戸山ヶ原の近くに住み始めた頃には、Sさんがいまでも忘れることのできない思い出があると言います。それはお父さん、お母さん、そしてSさんを含む子ども三人が手をつないで歩いたことでした。戦争が終わって、それまで親子が離れ離れになって暮らしていたのが今度は一緒に住むことができる、親子みんな手をつないで歩くことができる、その喜びはどれほどだったのでしょうか。うれしかったでしょうね。

Sさんのお父さんはすでに二〇年ほど前に亡くなられました。お母さんはいま、Sさんの妹さんとともに港区で暮らしておられます。そこでも、かつてはコスモスの花を咲かせていたそうです。

おもしろいものですね、Sさんの話を聞いてから、コスモスの花を見ると、一本いっぽんの茎が手をつないで見えるようになりました。



柿崎の「きままにコンサート」は15回目に

10月24日、柿崎区コンプラで行われた「第15回町の音楽家～きままにコンサート」に出かけてきました。長井順一さんなどによる雅楽からスタートし、ピアノやギターなどの演奏と歌がありました。楽しいイベントでした。

10日前に幼なじみを亡くしたばかりという丸山えつ子さんは、コンサートのために練習してきた曲を急きよ変更して、「吾亦紅(われもこう)」をピアノで演奏しました。しっかりと心に響きましたよ。平田優一さんなどとアリスの曲を演奏したArikoさんの楽器はおそらくペルー発祥の打楽器の一種、「カホン」かと思います。彼女の右手と左手の動きにくぎ付けになりました。まさにブラボーでした。娘さんが嫁ぐときに演奏

しようと思っていたという「未来予想図II」をサクソで演奏したのは山崎伸さん、ジョークを交えたおしゃべりは会場を何度も沸かせました。柿崎の音楽家のみなさんは演奏だけでなく、曲の紹介などのおしゃべりも上手でしたね。

びっくりしたのは、最後の全員合唱でした。曲は「紅葉」でしたが、「秋の夕日に…」と歌ったところで私の後ろの席の人たちが「秋の夕日に」と続けたのです。見事な合唱でした。写真は休憩時間に撮らせてもらったものです。



謙信SAKEまつりにちょっとだけ顔を出してきました。すごい人出でした。酒だけでなく、上越の食べ物が並ぶ祭りになっています。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月21日(水)	10月28日(水)
上越南消防署	0.040	0.060
上越北消防署	0.050	0.057
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.053	0.050
東頸消防署	0.040	0.046
高士分遣所	0.047	0.053
名立分遣所	0.053	0.050